

コミュニケーション能力 の育成

— 言語能力向上推進事業を通して —

「言語能力向上推進事業」 実施の背景とねらい



①新学習指導要領の趣旨の徹底

全ての教科等における言語活動の充実

思考力・判断力・表現力等の育成

【都独自の取組(平成22年度開始)】

②「言葉の力」再生プロジェクト

取組1 言葉の力を教育段階から定着

取組2 読書の機会拡充

「言葉の力」を再生し、世界で
活躍できる若者を育成

活字に親しむ学校づくりを通じた言語活動
「言語能力向上推進事業」を実施(平成23年度)
(推進校の指定と、その研究の成果を全都へ普及)

児童・生徒の言語能力の向上

言語能力向上推進校での取組



必須の取組

◆ 読書活動

— 言語活動の内容を豊富に —

◆ 書くこと(言語活動を操作する手段)に関する学習活動

— 論理的思考力・表現力の育成 —

その他の取組

◆ 教員研修、専門家による児童・生徒対象の授業、授業での工夫

＜授業での工夫の例＞

学校図書館を活用した授業、体験や調べたことをまとめ発表し合う学習活動、同じ本を読んで意見等を述べ合う学習活動、弁論大会など…

言語活動の質的向上

▶ 各教科等の学力向上

- ◇ 平成23年度
都立高校12校、特別支援学校3校 小・中学校50校、合計65校（3年間）を指定
- ◇ 平成24年度
新規65校を指定

3

指導過程のポイント



1 話題との出会い

2 自己の考えの形成

読書

書く

3 考えの交流（話し合い）

コミュニケーションを支える要素のうち、「伝え合う内容」と「言葉の力」を一層重視

4 自己の考えの再構築

読書

書く

4

都立西高等学校の取組



◆各教科での取組

外国語(英語) ディベートの実施

- ・ディベート準備のための Team Teaching 指導
- ・英語で話す機会づくり
- ・意見の組立て方や反論、意見の強化の仕方を学習

ディベートの実施

定期考査で補完

授業の内容について英語で自分の意見を書かせる問題を出題

- ・生徒の思考力・表現力や総合的な英語力が伸長

地理歴史・公民 3分間スピーチの実施

- ・新聞等からレポート作成
- ・記事内容、考察をスピーチ
- ・発表者指名の生徒が論評

ディベートの実施

- ・テーマ、チームを決め図書館やパソコン室でレジュメを作成
- ・司会、判定も生徒が行う。



授業の様子

- ・時事問題への関心の高まりや、多角的視点をもつようになるなどの効果
- ・生徒が、話すことのおもしろさや難しさを実感

5

都立荻窪高等学校の取組



◆読書活動への取組

読書への関心の高揚

- ・新入生対象の図書館ガイダンスを実施
- ・夏季休業中の読書活動と読書感想文を課す。

- ▶ 読書の習慣付け
- ▶ 自分の考えを文章に表す力の育成

◆言葉の大切さを伝える取組

講師を招聘した講演会等

講演「コミュニケーションと言語」

- 近石真介氏(俳優・声優・ナレーター)
- ・言葉の大切さ、気持ちの伝達方法などを実演を交えて講演



講演の様子

「古典落語」

- 立川談之助師匠・立川志ら乃師匠(落語家)
- ・日本語のもつ美しさ、言葉の魅力を味わう。
- ・言語能力の基盤である言葉の大切さを味わう。



立川談之助師匠の落語光景

- ・生徒が、コミュニケーションを図ることのすばらしさを実感(多くの言葉の習得、相手の気持ちを思いやる、人との関わり大切さなど)
- ・他者との関わりが不得意な生徒に気付きを与えるきっかけづくり

6

都立葛飾商業高等学校の取組



◆研究授業の実施

世界史

- ・新聞の作成過程の解説
- ・記事を読み取り、感想を話し合う授業を実施

▶活字への親しみを深め、日頃、新聞を読むきっかけに

◆言語とコミュニケーションに関する講義

講師を招聘した講義 言葉遣い・マナー指導(総合実践)

- ・秘書検定面接試験審査員の方による、円滑なコミュニケーション方法の指導



講義の様子

言語のトレーニング(国語表現) 相沢早苗氏(元お天気キャスター)

- ・言葉による表現方法
- ・コミュニケーションを豊かにする言葉の大切さに関する指導



講義の様子

- ・生徒が、相手に伝えることを懸命に行い、考えて話すように変容
- ・生徒が、正しい言葉遣いや振る舞いによりコミュニケーションが豊かになることを実感
- ・教員との会話でも、意識して話をする生徒が増加

7

主な成果と今後の方向性



- ◆コミュニケーションを図ることのすばらしさを実感
- ◆説得力のある話の構成や展開、表現を工夫
- ◆話合いの方向を捉え、よりの確に話す・聞く
- ◆多角的な観点から話の妥当性や信頼性を吟味
- ◆部活動や生徒会活動でも、多角的に考え発言

今後の方向性

- ▶相手の意図や考えを的確に理解し、論理的に説明したり、反論・説得したりできる能力を育成するための実践の場を提供
- ▶先進的な英語教育を実践する学校の指定や実践研究の実施

日本語や英語による思考力・判断力・表現力等を育成
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や実践力を育成

8

チャレンジスクール

きみの明日を創造する学校

—自分の夢を実現しよう—

エンカレッジ スクール

—生徒をカづけ、可能性を生かす学校—

9

チャレンジスクール エンカレッジスクール設置の経緯



生徒の多様化や、社会経済の進展等への対応の必要性

平成9年9月に「都立高校改革推進計画」を策定し、
新しいタイプの高校の設置、学区の撤廃などを推進

● チャレンジスクールとは...

不登校や中途退学を経験するなど、これまで自分の個性や能力を十分に発揮できなかった生徒が、自分の夢や目標に向かってもう一度チャレンジする高校



平成12年度以降
全5校を設置

● エンカレッジスクールとは...

小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援する学校

◎ エンカレッジ (encourage)

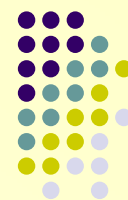
「カづける」「勇気づける」「励みになる」等の意



平成15年度以降
全5校を指定

10

チャレンジスクールの特徴



学力検査や調査書によらない入学者選抜

学力よりも学ぶ意欲や熱意を重視した、作文や面接による選抜を実施

基礎・基本の学習や多様な選択科目を設置

国語、数学、英語等で、学び直しのための基礎科目を設置
ボランティアや福祉活動等の体験的学習により、豊かな人間性を育成

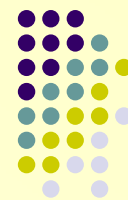
生徒の生活環境等に合わせた学習時間の選択が可能

ガイダンス等を通して自分の希望する科目を選択し、学習目的に応じた時間割を編制できる学校

カウンセリング機能や教育相談機能が充実

スクールカウンセラーの活用等による、心のケアに配慮したきめ細かな指導

チャレンジスクールの 基本的な枠組み



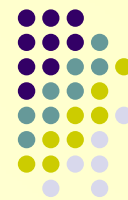
学校の基本的な枠組み

- ・ 定時制課程の単位制総合学科高校
- ・ 三部制（昼夜間）により、生徒の生活環境に応じた多様な学習が可能
- ・ 修業年限は4年が基本（他部履修により3年での卒業も可能）

三部制の概要

時間帯	午前				昼休み	午後				部活や生徒会など	給食	夜間				
時 限	1	2	3	4		5	6	7	8			9	10	11	12	
1部 【午前部】	必履修科目 (選択科目)					選択科目										
2部 【午後部】			選択科目			必履修科目 (選択科目)										
3部 【夜間部】								選択科目				必履修科目 (選択科目)				

チャレンジスクールにおける取組



学校の特徴ある取組事例

【大江戸高校】

1年次必履修

「生活実践(奉仕)」

※社会生活に必要な知識や自活する力を育成



2年次選択 (発展)

「生活とマナー」

※日本の伝統・文化に親しみながら社会生活に必要な知識を育成



【桐ヶ丘高校】

重層的、複層的な教育相談機能

- ・教育相談部を設置 ・教員全員担任制
- ・パーソナルチューター制
→いつでも、どの先生にでも相談可能な生徒が安心できる環境整備
- ・スクールカウンセラー
- ・メンタルフレンドシップアドバイザー等
→外部人材も活用

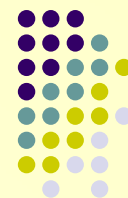
【稔ヶ丘高校】

学校設定科目「コーピング」(1年次必履修)の設置

箇条書きトレーニングなどの学習スキル
認知行動療法に基づく人間関係ストレスへの対処法

13

エンカレッジスクールの特色



学力検査によらない入学者選抜

知識よりも学ぶ意欲や熱意を重視し、作文や面接、調査書などによる選抜を実施

二人担任制による個に応じたきめ細かい指導

二人の担任により、学校生活や進路相談など生徒一人一人を大切にした指導

多彩な体験授業やキャリアガイダンスの実施

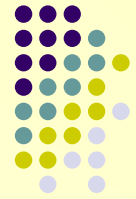
キャリアガイダンスにより、生き方や働くことについて考えを深化
福祉、和太鼓、デザインなどの多彩な体験授業により、生徒が自ら進路を選択

30分授業や習熟度別授業などにより基礎・基本を徹底

国・数・英を中心に30分授業で集中的に学習
学び直しや学習進度に応じた少人数指導により分かる授業、引き出す授業を展開
定期考査を実施せず、提出物や随時の小テストなどにより多角的に評価

14

エンカレッジスクールの 基本的な枠組み



学校の基本的な枠組み

- ・全日制課程・普通科及び専門学科の高校の中から指定
- ・キャリアガイダンスや30分授業、学び直しなど他の高校にない特色

教育課程編成の例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
1年次	国語総合		地理A		現代社会	数学I	数学	ベーシック		理科総合A		体育	保健		書道I	美術I	音楽I	英語I		家庭総合	キャリアガイダンス	体験学習I	体験学習II	HR							
2年次	国語総合	世界史A		数学I	理科総合B		体育	保健		英語II	家庭総合	情報A	キャリアガイダンス	体験学習I	体験学習II	選択科目							総合的な学習の時間	HR							
3年次	現代文	日本史A	政治・経済	体育	英語II	キャリアガイダンス	体験学習III	奉仕	必修選択								自由選択						総合的な学習の時間	HR							

学び直しとは

- 国語**
カタカナ、漢字の読み書き、辞書の引き方...
- 数学**
四則計算の基本、分数・小数の計算、百分率...
- 英語**
アルファベット、基本単語・熟語、簡単な日常会話...

エンカレッジスクールにおける取組



学校の特色ある取組事例

【蒲田高校】 宿泊体験

1年次及び、2年次の宿泊体験を通じた、農作業や薪割り、農家の方々との交流

原体験の経験と生徒の心の変化等の効果

豊かな人間性や社会性を育成



1年次
(新潟)



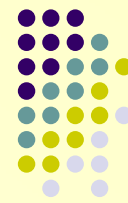
2年次
(青森)

【秋留台高校】 生活指導の徹底

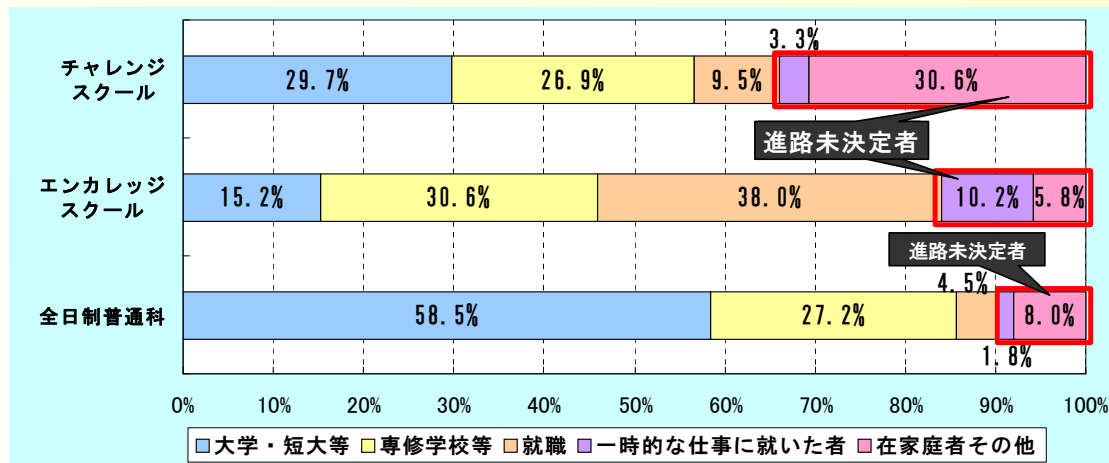
厳しい服装・頭髪指導、挨拶指導や朝の登校指導(最寄駅から校門まで教員を配置)など

問題行動の減少、授業規律の確保(落ち着いた授業ができる環境)、中途退学の減少

チャレンジスクール エンカレッジスクールの課題

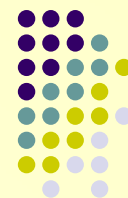


中途退学者の減少などの成果がある一方、進路が未決定のまま卒業していく生徒が未だ多く存在しているなどの課題も残っている。



「平成23年度 公立学校統計調査報告書【公立学校卒業者（平成22年度）の進路状況調査編】」

課題解決に向けた今後の方向性



これまで重視してきた「学校への定着」という視点だけでなく、「卒業後の進路実現」という視点も重視

今後は、

- ・生徒の学習意欲向上に向けた方策
- ・自立の基盤となる、「基礎学力の定着」、「社会性の育成」

などを軸に、教育課程編成などの取組を多角的に検討し、必要な改善を順次実施

東京都設定教科・科目 「奉仕」について

東京都教育委員会著作
準教科書「奉仕」
と指導書



19

東京都設定教科・科目「奉仕」設置の経緯



東京都教育委員会の教育目標（抄）（平成13年1月11日東京都教育委員会決定）
社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
の育成に向けた教育を重視する。

東京都教育ビジョン（平成16年4月 東京都教育委員会）

奉仕体験や勤労体験等を通して、他人に共感し、社会の一員であることを実感し、また、社会に役立つ喜びや、勤労の大切さなど多くのことを体験的に学んでいく。今後は、学校が地域と連携し、児童・生徒の**奉仕活動・勤労体験活動を地域の中で意図的、計画的に行っていけるような仕組みを作っていく必要がある。**

平成19年度から、全都立高校・全課程で必修化

（平成16年度決定、17、18年度に実践・研究校での取組を踏まえカリキュラム開発を実施）

都立高校の全生徒が在学中に1単位以上「奉仕」（学校設定教科・科目）について学び、奉仕体験活動を行う。

20

東京都設定教科・科目「奉仕」の目標



目標

奉仕に関する基礎的・基本的な知識を習得させ、活動の理念と意義を理解させるとともに、社会の求めに応じて活動し、社会の一員であること及び社会に役立つ喜びを体験的に学ぶことを通して、将来、社会に貢献できる資質を育成する。

**1単位時間(35時間)のうち
18時間以上は「奉仕体験活動」を実施**

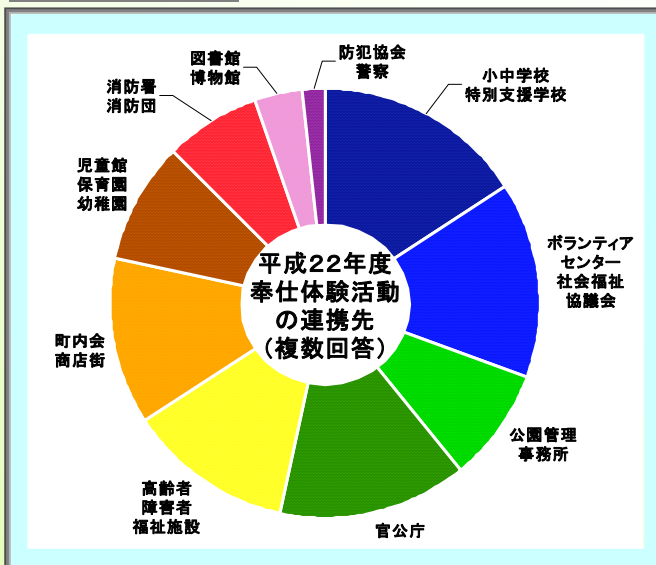
奉仕体験活動の実施状況



活動内容



連携先



活動内容では、環境保全が最も多く、福祉等の増進、子供の健全育成と続く。
連携先では、小中学校や特別支援学校、ボランティアセンターや社会福祉協議会が多い。

奉仕体験活動の取組事例



学校の取組事例

【清瀬高校】

衣料品店と連携した衣料リサイクル活動の実施
環境問題などの社会問題を認識
生徒が中心となった活動運営
社会貢献活動を具体的に体験

①



事前学習

選別作業



③



発送作業

発表公演



【荒川商業高校】

地域貢献、町の環境美化、地域交流、地域活性化を目指して活動



保育園児を招いてじゃがいも掘りを実施。



区から提供された花壇を整備

屋台や遊び場を設置し地域の皆様と交流



別添「平成22年度 奉仕体験活動フォーラム」参照

23

教科「奉仕」の主な成果

(平成22年度 教科「奉仕」の実施状況調査: 全都立高校対象)



(1) 奉仕に関する基礎的・基本的な知識の習得

当初、強制的な印象をもっていた生徒も、感謝の言葉や笑顔に触れたりすることで、「他者との関わり大切さ」や「感謝されることの喜び」を実感。(商業科・全)

(2) 社会の一員としての自覚や規範意識の涵養

地域社会・住民から生徒に直接感謝の声が掛けられたことにより、社会に役立つ喜びを得て、社会の一員であることを自覚。(工業科・全)

(3) 社会貢献の精神の醸成

バスや電車の中で席を譲る、お年寄りや障害のある方への道案内、ボランティア活動に参加する生徒の増加など、日常生活の行動が変容。(総合学科・定)

24

教科「奉仕」体験後の生徒の自己評価 (平成20年度高等学校教育開発委員会調査:調査対象生徒971人)



質問項目	肯定的評価
奉仕体験活動の意義や課題を理解できたか。	84%
地域や社会の一員である自覚をもてたか。	83%
あいさつ・言葉使いなど社会のマナーを身に付けて、活動できたか。	82%
地域や社会に様々な課題があることを理解できたか。	72%
今後、貢献活動を前向きに行おうという気持ちをもつようになったか。	70%

25

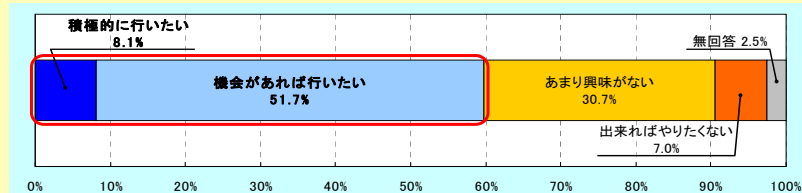
課題と今後の方向性



課題

・生徒の約6割は社会貢献活動を行いたいと考えている。

図3 問 あなたは今後、ボランティアなどの社会貢献活動を行いたいですか。 回答数=7,674人



「都立高校の現状把握に関する調査(都立高校生意識調査)」(平成23年度)

今後は、生徒の社会貢献意欲を一層高め、実際の行動に結び付けさせる取組を実施していく必要がある。

今後は...

自校の防災と、近隣住民の安全を支える高い社会貢献意識と実践力をもつ人間を育成

→ 消防庁などと連携した災害時支援活動の疑似体験の実施

発災時に自分だけでなく身近な人を助けるなど、地域に貢献できる人間を育成

→ あらゆる場面を想定し、体育館などを使用した宿泊防災訓練の実施

26